

南丹教育局NEWS

●令和5年度南丹美術工芸パートナーズクール事業●



南丹教育局では、小学生が高校生の指導を受けて作品を制作することを通して、美術工芸への興味・関心を高める「南丹美術工芸パートナーズクール事業」を実施しています。小学生は身近な先輩から直接学ぶことで自分の将来に対する希望や関心を持ち、また、高校生は小学生への指導を通して日々の学習に対する自信や誇りを持つなど、校種を越えた連携を通して、「つながる学び」に取り組んでいます。

亀岡市立稗田野小学校 & 亀岡高等学校

亀岡市立稗田野小学校3～6年生63名が、6月15日～6月28日の2日間にわたり、亀岡高校普通科美術・工芸専攻1年生30名から指導を受けて、作品を制作しました。

3年生は「リコーダーとわたし」、4年生は「生き物をかこう」、5年生は「まだ見ぬ世界」、6年生は「〇〇する友だち」をテーマにしました。

高校生は小学生の学年ごとのグループに分かれ、各学年の教室に入って指導しました。1回目の交流では、最初に高校生から自己紹介を行った後、それぞれの学年ごとに作成する作品の下描きを行いました。

「カニには模様があるね。どんな模様をしてる？」「何をしている友達を書きたいか、もう一度確認してみよう！」など、高校生からもらったアドバイスを基に、小学生はどんどん下書きを進めていきました。

初めはお互い緊張していた様子でしたが、制作を進めていく中で会話も笑顔も増え、少しずつ距離が縮まっていき、和やかな雰囲気の中、真剣に取り組めました。



2回目の交流では、完成した下描きに着色を行いました。

絵の具を混ぜて色を作ることから始めましたが、小学生は何色をどのくらい混ぜれば自分が塗りたい色になるのか苦戦していました。「同じ色でも影があると暗く見えるね！少し明るい色、少し暗い色を作り影を描いてみることに挑戦してみよう！」という先生の問いかけに対し、小学生は別画用紙に作った色を見比べたりして、試行錯誤していました。

高校生は、手が止まって、頭を抱えている小学生に積極的に話しかけ、色の作り方などを教えていました。

高校生から「上手だね！その調子！」などの声かけがあり、小学生たちはのびのびと楽しそうに、また、真剣な表情で集中して作品を制作していました。

高校生同士でも、アドバイスの方法を話し合いながら、小学生と同じ目線に合わせて細かい部分を指差して説明したり、自分のスケッチブックにお手本を描いて示し、小学生の作品の良いポイントと、さらに良くなるポイントを優しく丁寧に伝えていました。

今回の取組で、小学生は絵を制作する楽しさと技法を学び、高校生は教えることの楽しさと難しさを学び、お互いに貴重な経験を得ることができました。

完成した作品の一部は、「第17回京都丹波美術工芸教育展」(10月28日・29日開催)で会場展示を行います。また、「デジタル展示」(2月上旬南丹教育局ホームページ上)でも紹介する予定です。



南丹教育局では、南丹地域の市町教育委員会や幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校の取組を支援するとともに、地域ならではの教育振興に取り組んでいます。
ぜひ、ホームページをご覧ください！！

南丹教育局ホームページ
<http://www.kyoto-be.ne.jp/nantan-k/cms/>

